

## インフォシス(NYSE: INFY) 2017 年度第 2 四半期の決算を発表

インド、ベンガルール:2017 年 10 月 24 日

### 1. 2017 年第 2 四半期および半期の決算ハイライト

第 2 四半期の収益は、米ドル換算で 2.9% の連続成長、実質ベースで 2.2% 増

前年同期比は米ドル換算で 5.4% 増

営業利益率は前期の 24.1% から改善して 24.2%

純利益率は前期の 20.4% から改善して 21.2%

基本 1 株当たり利益は 0.25 ドルで 7.0% の連続成長、前年同期比で 7.3% 増

半期の前年同期比は報告ベースで 5.7% 増、実質ベースで 5.5% 増

流動資産(現金、現金相当物、投資)は 2017 年 9 月 30 日時点で 63 億 4000 ドル

トレーニング中の人員を除く稼働率は最高記録となる 84.7%

2017 年度の間配当は 1 株当たり 13 ルピーと発表(前年度の 1 株当たり 11 ルピー)

2017 年度の売上高は実質ベースで 5.5%-6.5%、営業利益率は 23%-25% の見込み

### 財務ハイライト

国際財務報告基準(IFRS)に基づく 2017 年第 2 四半期の連結決算

- 2017 年第 2 四半期の売上高は 27 億 2800 万米ドル  
前四半期比の伸びは報告ベース 2.9% 増、実質ベースで 2.2%  
前年同期比の伸びは報告ベースで 5.4% 増、実質ベースで 4.6%
- 2017 年第 2 四半期の営業利益は 6 億 5900 万ドル  
前四半期比で 3.4% 増、前年同期比で 2.4% 増
- 2017 年第 2 四半期の純利益は 5 億 7800 万ドル  
前四半期比で 7.0% 増、前年同期比で 7.3% 増

国際財務報告基準(IFRS)に基づく 2017 年半期の連結決算

- 2017 年半期の売上高は 53 億 7900 万ドル  
前年同期比の伸びは報告ベースで 5.7%、実質ベースで 5.5%
- 2017 年半期の営業利益は 12 億 9800 万ドル  
前年同期比で 4.1% 増
- 2017 年半期の順履歴は 11 億 1900 万ドル  
前年同期比で 6.6% 増

「当社は、今後もソフトウェアによって実現可能なサービスの実行と、当社の新しいサービス・ポートフォリオの拡充に重点的に取り組んでいきます。」と、**暫定最高経営責任者兼取締役プラビン・ラオ**は述べています。「当四半期は、経営陣と取締役会における変更に対して、ステークホルダーと事前にコミュニケーションを図って迅速に対応したことで、ビジネスへのマイナスの影響を最低限に抑えただけでなく、主要な事業部においてはビジネスを拡大しました。」

**最高財務責任者 M. D. ランガナト**は次のように述べています。「業務効率化に重点的に取り組んだ結果、当四半期は安定した営業利益をえるとともに、給与など従業員への支払いも増額することができました。株主利益率を改善するために1株当たり13ルピーの中間配当や13,000千万ルピー相当の自己株取得など、当四半期は資本配分ポリシーに向けて様々な手段を講じました。」

## 2. 業績見通し

国際財務報告基準(IFRS)に基づく2017年度通期の見通し(連結)

- 収益は実質ベース\*で5.5%-6.5%増の見通し
- 2017年9月30日時点の為替レート\*\*では米ドル換算で6.5%-7.5%増の成長見込み

\*2017年の恒常為替レート:豪ドル/米ドル0.75、ユーロ/米ドル1.09、英ポンド/米ドル1.30

\*\*2017年9月30日時点の為替レート:豪ドル/米ドル0.78、ユーロ/米ドル1.18、英ポンド/米ドル1.34

## 3. 自己株取得に関する最新情報

2017年8月19日の取締役会において、13,000千万ルピー(約20億ドル)を上限として額面価格1株当たり5ルピーとなる払込済み株式を適格株主から買い戻す提案が承認されました。今回の自己株取得案は、普通株式を最大113,043,478株、合計で払込済み持分株式資本の4.92%まで、1株当たり1,150ルピーの価格で買い取る計画です。買戻しは、配当基準日(例えば、2017年11月1日)時点における同社のすべての適格株主(配当基準日に米国預託株式の解約、基本普通株の引き出しことによって、配当基準日付で株主になる者を含む)から、「株式公開買付け」方式により比例配分によって買戻しを行う提案です。自己株式取得案は株主により2017年10月7日に実施した郵便投票にて承認されました。2017年10月10日、インフォシスは公開買付けによる自己株式取得を公表し、管轄官庁に買付申出のドラフトを提出しました。

## 4. 戦略の見直し

過去8週間、経営陣および取締役会のメンバーは包括的な戦略の見直しを行いました。戦略の刷新の方向性を定めるため、組織内の全プログラムを見直し、実行計画を促進し、サービスおよびソフトウェア・ポートフォリオにおける投資の優先順位付けを実施しました。

この見直しの結果、当社の戦略的方向は、ソフトウェアで実現可能な市場にあった設計、コンサルティング、テクノロジー・サービスを引き続き提供していく、という再確認をしました。この戦略の実行によって、インフォシスはお客様がデジタル化を実現する際の信頼できるパートナーに位置づけられます。

## 5. 最高経営責任者のサーチと株主とのコンサルテーション

次期最高経営責任者の特定と株主との協議プロセスが開始し、順調に進んでいます。

## 6. 調査のレビュー

前回の四半期報告でお知らせしたとおり、取締役会会長はインフォシスがこれまでに受け取った匿名のクレームに関する外部調査のレビューを実施しました。その内容は Panaya の買収(2015 年 2 月完了)や前最高財務責任者への退職金など、下記の通りです。

会長による慎重な検討の後、取締役会は、外部調査では不正行為の申し立てには根拠がないという結果を再度確認することとなりました。

ニルカニ会長は次のように述べています「私は、関係者全員がインフォシスへの強い情熱に突き動かされて行動し、それぞれがインフォシスにとってベストなことが上手いくように願っている、と信じています。これらの事情を鑑みて、独立調査の結論は正しいと十分に納得しており、取締役全員も同様に納得しています。取締役会も私も高度なプロフェッショナリズムに徹しており、今後ともガバナンスに関してどのような問題が発生しても、迅速かつ断固として対処していく所存です。」

取締役会が前回指摘したように、いくつかの点で、前最高財務責任者への退職金の支払いについて問題があったため、プロセスやその履行において改善すべき点を明確にし、すでに改善されています。この点について開示は適時行われましたが、フィードバックに基づいて 2016 年 12 月から主要経営陣の退職時に支払った退職金の情報を開示するようになったため、開示時期が早くなりました。さらに現在は、退職金についてグローバル規模でベンチマーク化し、シニア・マネジメントの雇用契約についての見直しも実施しました。

前回記載したとおり、この外部調査は包括的かつ堅実な調査でした。調査会社の Gibson, Dunn & Crutcher 社と Control Risks 社は、過去にインフォシスとの取引はなく、Cyril Amarchand Mangaldas (「CAM」)によって実施された過去 2 回の調査に関するレビューにも参加していません。両社は、”)。They concluded that CAM による 2 回の調査は完璧であり、その調査結果と結論は証拠などから妥当で信頼できるものでした。Gibson Dunn の調査は Charles Stevens と Benjamin Wagner によって実施されました。2 人とも大統領に指名された元米国司法省上級検事であり、それぞれ何十年も不正および会社犯罪を調査・起訴した経験を有しています。この調査では、世界中から 50 人以上の証人に面接を行い、会社のポリシーや取締役会議事録、公式届出や社内文書、Gibson Dunn 弁護士により取得・調査・レビューした何千件もの社内メールや付属文書、法廷会計専門家による技術・財務情報の分析、諸外国における報道記事や公文書のレビュー、CAM 発行の以前の調査報告書のレビュー、文書化支援、その他調査手段などが含まれます。調査チームは無制限に情報にアクセスすることができ、インフォシスと経営陣、従業員も全面的に協力しました。

とりわけ、レビューにより、Panaya の買収に関する不正行為疑惑には根拠がないという独立調査の結果が再確認されています。また、レビューでは、前最高財務責任者が辞任した四半期の期末とその後の当社 20-F および年次報告書での前最高財務責任者に対する退職金に関する当社の開示は適切かつ時宜を得ていたと確認されました。

これらの事柄に対する注目を鑑みて、過去の慣例とは異なり、当社はこれらの調査結果の概要を公表しています。Gibson, Dunn & Crutcher の監査委員会に対する調査結果概要を伴った覚書のコピーを付録として添付します。

慎重な検討を経て、当社は、さらなる調査詳細を公表することは今後のあらゆる事柄についての実効的な調査を実施する当社の能力を妨げることになるという結論に達しました。内部通報者や調査プロセスの参加者の公正さと協力を確保するためには機密性が重要です。調査報告書の完全公表の前例は、今後調査の必要性が生じた場合に、参加者の協力を妨げる可能性があります。

さらにニレカニ氏は、「当社が更に安定した環境に向けて前進するにあたり、Mr. Narayana Murthy をはじめとする支持者の皆様の本社に対する深い愛着に感謝します。取締役会はすべてのステークホルダーの利益を代表し続けてまいります。また、この象徴的な機関の設立とコーポレート・ガバナンス関連において Mr. Narayana Murthy が担ったリーダーシップの役割に感謝の意を表したいと思います。今後、当社は Mr. Murthy との信頼関係の構築に努めてまいります。」と述べています。

取締役会は、これらの事柄に関連する疑問と注視の高まりは、一つにはさまざまなステークホルダーの本社に対する強い思いと当社の成功によるものであると指摘します。インフォシスに対して深い愛着を持つステークホルダーにより疑問が提起され、取締役会は同等の熱意と誠意をもって対応しました。

取締役会は、これらの問題を収束する時が来たと確信し、未来に目を向け、一丸となって戦略、運営そして成長に重点を置いて取り組むために全ステークホルダーの支援を求めています。

## 7. 事業に関するハイライト

本年度第 2 四半期、当社は、グローバル・プログラムの実行においてデザイン・シンキング主導のアプローチと経験で世界的に有名なロンドンを拠点とするプロダクト・デザインおよび顧客体験 (CX) のイノベーターである Brilliant Basics を買収しました。この買収により、顧客向けの変革ソリューションを推進するデジタル能力が強化されます。

当社はオランダに事業所を新設することによりグローバル拠点を更に拡大しました。また、今後 2 年間で 10,000 人のアメリカ人労働者を雇用する取り組みも着実に前進しており、ローリーに弊社のノースカロライナ・テクノロジー・アンド・イノベーション・ハブを開設することを発表しました。

特にクラウド・エコシステム、ビッグ・データおよびアナリティクス、API およびマイクロ・サービス、データおよびメインフレーム近代化、サイバー・セキュリティ、IoT エンジニアリング・サービスなどの新サービスに対する当社の投資は前途有望な結果を見せています。第 2 四半期を通して、これらのサービスはより多くの顧客を引き付け、現在、当社の 2017 年度売上の 9.4% に貢献しています。

さらに、当社の顧客プロジェクトの性質は、新しいモデルや市場開拓アプローチの探求に伴って進化し続けています。

- コンテナ輸送の世界的大手 CMA CGM グループは、顧客サービス体験を向上させると同時に同社の IT アプリケーションの簡素化と変革を目的に当社と 7 年間の提携を結びました。この合意の一環として、インフォシスはマルセイユに開発センターを開設すると共にドバイにある CMA CGM のイノベーション・アンド・デリバリー・センターを買収する予定です。
- 当社は、ATP と共同で、ATP プレーヤー、サポート・チーム、コーチやエコシステムのその他の関係者向けのエクストラネット・ポータルである新しい「PlayerZone」アプリケーションおよびウェブサイトの開設を発表しました。これにより、ユーザー間の相互連携が可能となり、ユーザーはツアー中の生活に関連する幅広い運営上の側面に係る情報にもアクセスできます。
- 当社は、オープン・ソース・ソフトウェアのパイオニアである Micro Focus SUSE と協力してプライベート・クラウド・ソリューションを発売し、ソフトウェアで定義されたデータ・センター・インフラおよびアプリケーション・デリバリー・ソリューションを提供しています。このソリューションは、ハードウェアに依存することなく素早い導入によって商品化に要する時間の短縮を可能にし、より迅速なサービス、より優れたインフラの俊敏性とコントロールを提供することにより、企業のデジタル変革の大幅加速を後押しします。
- フォーチュン 500 社に名を連ねるグローバル HR ソリューションの大手プロバイダーである Adecco とインフォシスは、モバイル・ファーストのクラウド型エンド・ツー・エンド・デジタル・スタッフィング・プラットフォーム Adia の共創を通して、人材配置の未来を再定義しつつあります。Adia は、企業による短期ポジションに対する臨時スタッフの採用を可能にすると共に、接客、イベント、物流をはじめとする複数の産業において人材の需要と供給をマッチングすることにより業界に大変革をもたらすことを目指しています。このプラットフォームはスイスの 6 都市で既に本稼働しています。

当社の新たなソフトウェア事業は成長を続け、2017 年第 2 四半期の売上の 1.6% に貢献しました。Finacle、NIA、Edge、Panaya および Skava 全体のサービスを利用して顧客向けにプロセスの合理化、ビジネスの差別化およびユーザー体験の向上に取り組んでいます。

- 第 2 四半期、EdgeVerve 事業は、さまざまな市場において Finacle および Edge ソリューション・パッケージで 54 件の受注と 34 件の本稼働を達成し、高い業績を上げました。



- 当社の主力人工知能および自動化プラットフォームであるインフォシス NIA は好調を維持し、大規模な新規契約のほとんどで取り上げられています。さらに、同プラットフォームは、ローン開設、不正管理、需要把握、予測原価計算、契約順守、調達自動化をはじめとする多様なビジネス・ソリューションで用いられています。当社は 100 社以上の顧客と共同で 200 件近くのプロジェクトに取り組んでおり、同プラットフォームおよびビジネス・ソリューションの今後に非常に大きな可能性を見出しています。
- nbn™ での AssistEdge RPA の導入がオーストラリア IQPC 主催の企業向け AI および RPA イベントにおいて「RPA Excellence award for Customer Experience」を受賞しました。この賞は、2017 年の要求規模に対応するという nbn™ で達成した業績を認めるものです。
- Finacle はデジタル変革に向けた最適パートナーとしての地位を強化し続け、引き続き銀行向けの新ビジネス・モデルに可能性を与えています。第 2 四半期、Finacle は、デジタル・チャネルでチャットおよび音声ベースのインターフェースを介して対話形式のバンキング・サービスを提供する Active.AI、バンキング顧客向けのチャット型商取引プラットフォームを提供する Niki.AI、音波技術を利用して近接型の支払ややり取りを可能にする結合ソリューションを提供する ToneTag との 3 つの新たな Fintech パートナシップを発表しました。これらのパートナーはすべて Finacle コネクト・プログラムを通して参加しました。
- 第 2 四半期の主要な本稼働の中の 1 つであるマルタの大手銀行 Mediterranean Bank は、Finacle 融資モジュールの商用稼働を開始しました。同行は企業顧客に一貫した統一プラットフォームを提供するために既存の融資ソリューションを Finacle に入れ替えました。さらに別の際立った導入では、DBS Hong Kong が預金、出納、当座貸越、消込、ACH および仕組商品に対応した Finacle のソリューション・パッケージの本稼働を達成しています。この導入プログラムは、2017 年度の The Asian Banking and Finance Awards で「Core Banking System Initiative of the year – Hong Kong」を受賞しました。

インフォシスは、同種類の税務プロジェクトで世界最大の名誉ある GST プロジェクトへの関与を大変誇りとしています。システムは既に複数のパラメーターで成功を実証しています。毎月 300 ~ 320 カロール(30 ~ 32 億)のインボイスを処理するよう設計された同システムには、これまでに 37 カロール(3 億 7 千万)のインボイスがアップロードされています。70 ラーク(700 万)人の納税者が正常に新システムへ移行され、国は 25 ラーク(250 万)人の新規登録納税者を記録しました。中央および州レベルの税管理体制は正常にこのシステムに移行し、29 の州と 7 つの連邦直轄領と統合されました。さらに、同システムは 1 ラーク(10 万)人のアクティブ・ユーザーに対処することが可能で、全体の 50% の届出が行われた最後の 2 日間にロードのピークがありましたが、サーバー使用率 25% で回収の 70% を達成し、規模に対処するシステムの能力を実証しました。

このような大規模のプロジェクト、特に今回のように変革をもたらすプロジェクトはポリシーとステークホルダー・ユーザビリティの両方の変更に対処しなければなりません。特に GST Suvidha プロバイダー、Aadhar、物品税関税中央局およびモデル 1 の州を含む異種の IT エコシステムとの統合であることに起因して、これらの変更の一部はシステムへの急速な変更をもたらしました。プロジェクトの複雑性と急速な変更管理を鑑みて、ステークホルダーからいくつかの懸念も提起されました。当社の最も優秀なエンジニアの一部がこれらの懸念の解消と全ステークホルダーへの奉仕に向けて取り組みながら GSTN チームをサポートしています。

### 受賞および評価

- 名誉あるダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)に掲載されており、現在はダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス(DJSI World) およびダウ・ジョーンズ・サステナビリティ新興市場インデックスの一部です。
- Everest Group の生命および年金保険 AO PEAK Matrix™ のリーダーに認定されました。
- Everest Group の保険 AO PEAK Matrix™ のリーダーに認定されました。
- HfS Blueprint: 2017 年アプリケーション開発および管理サービスの Winner's Circle でリーダーに認定されました。
- HfS Blueprint: 2017 年エネルギー事業の Winner's Circle でリーダーに認定されました。
- HfS Blueprint: 2017 年アプリケーション・テスト・サービスの Winner's Circle でリーダーに認定されました。
- HfS Blueprint: IT インフラ管理およびエンタープライズ・クラウドの Winner's Circle でリーダーに認定されました。

- Microsoft Inspire 2017 で、Microsoft プラットフォーム近代化賞およびワールド・ワイド・クラウド & システム・インテグレーション・インテリジェント・クラウド・アライアンス・パートナーを受賞しました。
- 権威ある Forrester Wave: Digital Banking Engagement Platforms 2017 で Finacle はデジタル・バンキング・サービスにおけるリーダーに位置付けられました。
- ガートナーのマジック・クアドラント 2017 年グローバル・リテール・コア・バンキング部門で Finacle は 10 回目となるリーダーの格付けを得ました。

## 当社について

インフォシスはテクノロジー・サービスとビジネス・コンサルティングのグローバル・リーダーです。当社は 45 か国のお客様によるデジタル変革に向けた戦略の策定および実行を実現します。エンジニアリングからアプリケーション開発、知識管理および業務プロセス管理まで、当社はお客様が解決すべき問題を的確に把握し、効果的に解決するためのお手伝いをします。全世界で 19 万 8 千人以上のイノベーターから成る当社チームは創造力、あらゆる産業やテクノロジーに関する知識や経験で他とは一線を画し、その能力は当社が取り組むすべてのプロジェクトで活用されます。

[www.infosys.com](http://www.infosys.com) を訪れ、インフォシス (NYSE: INFY) がどのようにデジタル時代における企業の成功を支援しているかをお確かめください。

## セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、1995年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2016年会計年度(2017年3月31日付)年次報告書(Form 20-F)を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、[www.sec.gov](http://www.sec.gov) でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合があります。当社は、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

## お問合せ先

投資家関連 Sandeep Mahindroo

+91 80 3980 1018

[Sandeep\\_Mahindroo@infosys.com](mailto:Sandeep_Mahindroo@infosys.com)

メディア対応 Sarah Vanita Gideon

+91 80 4156 3998

[Sarah\\_Gideon@infosys.com](mailto:Sarah_Gideon@infosys.com)

Chiku Somaiya

+1 7136706752

[Chiku.Somaiya@infosys.com](mailto:Chiku.Somaiya@infosys.com)

## 日本におけるお問い合わせ先

マーケティングマネージャー 安藤穰 [jo\\_ando@infosys.com](mailto:jo_ando@infosys.com)

## インフォシスリミテッドと子会社

## 無監査連結中間貸借対照表

(100 万ドル、株式データを除く)

	2017 年 9 月 30 日付	2017 年 3 月 31 日付
<b>資産</b>		
<b>流動資産</b>		
現金および現金等価	3,575	3,489
短期投資	1,857	1,538
売掛金	2,056	1,900
未請求収益	633	562
前払費用とその他流動資産	797	749
金融派生商品	1	44
<b>流動資産合計</b>	<b>8,919</b>	<b>8,282</b>
<b>非流動資産</b>		
有形固定資産	1,814	1,807
のれん	580	563
無形資産	107	120
関連会社に対する投資	-	11
非短期投資	945	984
繰延税金資産	111	83
所得税金資産	956	881
その他非流動資産	119	123
<b>非流動資産合計</b>	<b>4,632</b>	<b>4,572</b>
<b>資産合計</b>	<b>13,551</b>	<b>12,854</b>
<b>負債および資本</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	82	57
金融派生商品	10	-
未払法人所得税	700	599
前受金	2	5
前受収益	306	274
従業員給付債務	228	209
引当金	64	63
その他流動負債	1,025	954
<b>流動負債合計</b>	<b>2,417</b>	<b>2,161</b>
<b>非流動負債</b>		
繰延法人所得税負債	29	32
その他非流動負債	21	24
<b>負債合計</b>	<b>2,467</b>	<b>2,217</b>
<b>資本</b>		
株式資本 額面価格 5 ルピー (0.16 ドル)		
授權株式 2,400,000,000 株 (2,400,000,000 株)		
発行済み株式 2,286,087,194 株 (2,285,655,150 株)		
自己株式 10,901,258 株 (11,289,514 株)		
2017 年 9 月 30 日現在 (2017 年度)	199	199
資本余剰金	592	587
利益余剰金	12,571	12,190
キャッシュ・フロー・ヘッジ準備金	(1)	6

	2017年9月30日付	2017年3月31日付
その他剰金	108	-
その他の資本構成要素	(2,385)	(2,345)
<b>親会社の所有者に帰属する持分合計</b>	<b>11,084</b>	<b>10,637</b>
非支配持分	-	-
<b>資本合計</b>	<b>11,084</b>	<b>10,637</b>
<b>負債および資本の合計</b>	<b>13,551</b>	<b>12,854</b>

## インフォシスリミテッドと子会社

## 無監査連結中間包括利益計算書

(100万ドル、株式データを除く)

	2017年度 第2四半期	2016年度 第2四半期	2017年度 上半期	2016年度 上半期
<b>売上収益</b>	<b>2,728</b>	<b>2,587</b>	<b>5,379</b>	<b>5,088</b>
売上原価	1,743	1,638	3,435	3,231
<b>売上総利益</b>	<b>985</b>	<b>949</b>	<b>1,944</b>	<b>1,857</b>
<b>営業費用:</b>				
販売費	132	134	269	271
管理費	194	171	377	340
営業費用合計	326	305	646	611
<b>営業利益</b>	<b>659</b>	<b>644</b>	<b>1,298</b>	<b>1,246</b>
営業外利益	137	114	263	226
関連会社の利益(損失)の分配	-	(1)	-	(1)
関連会社への投資の評価損	-	-	(11)	-
<b>税引前利益</b>	<b>796</b>	<b>757</b>	<b>1,550</b>	<b>1,471</b>
法人所得税費用	218	218	431	421
<b>純利益</b>	<b>578</b>	<b>539</b>	<b>1,119</b>	<b>1,050</b>
<b>その他の包括利益</b>				
損益に組み替えられない項目:				
確定給付純負債(または資産)の再測定	1	(6)	1	(9)
IFRS 9の適用による上場債権の含み益戻入に対する累積影響	-	-	-	(5)
その他の包括利益による資本性金融商品	-	-	-	-
損益に組み替えられる項目:				
投資の公正価格の変動	2	-	6	-
キャッシュ・フロー・ヘッジに指定された金融派生商品の評価替え	3	-	(7)	-
海外事業の為替換算差額	(107)	119	(47)	(54)
<b>その他の包括利益合計(税引後)</b>	<b>(101)</b>	<b>113</b>	<b>(47)</b>	<b>(68)</b>
<b>包括利益合計</b>	<b>477</b>	<b>652</b>	<b>1,072</b>	<b>982</b>
<b>当期利益の帰属:</b>				
親会社の所有者	578	539	1,119	1,050
非支配持分	-	-	-	-
	<b>578</b>	<b>539</b>	<b>1,119</b>	<b>1,050</b>
<b>包括利益合計の帰属:</b>				
親会社の所有者	477	652	1,072	982



	2017 年度 第 2 四半期	2016 年度 第 2 四半期	2017 年度 上半期	2016 年度 上半期
非支配持分	-	-	-	-
	<b>477</b>	<b>652</b>	<b>1,072</b>	<b>982</b>
<b>1 株当たり当期利益</b>				
基本的 1 株当たり利益(ドル)	0.25	0.24	0.49	0.46
希薄化後 1 株当たり利益(ドル)	0.25	0.24	0.49	0.46
<b>1 株当たり収益算定に使用される加重平均株式</b>				
基本的	2,285,865,361	2,285,641,710	2,285,762,186	2,285,632,081
希薄化後	2,287,526,183	2,285,949,303	2,287,882,534	2,285,875,988

**注記:**

1. 2017年度第 2 四半期および上半期の無鑑査の連結中間貸借対照表および中間損益計算書は 2017年10月24日の取締役会にて記録されました。
2. 当社の業績に関する概況報告は [www.infosys.com](http://www.infosys.com) からダウンロードできます。
3. 2017年第 2 四半期、当社は、インフォシスのイノベーション・ファンド・インベストメントである関連会社 DWA Nova LLC の帳簿価額全体の評価減を計上しました。2017年第 1 四半期純利益に対する評価損の影響は 1,100万ドルです。